

稲わら等の活用を進めましょう！

稲わらや籾がらは 貴重な有機資源です

稲わらや籾がらは焼却せずに、環境にも人にもやさしい「新潟米」づくりを実践しましょう



稲わらや籾がらは、土づくりのための秋すき込みや堆肥としての使用、更には家畜飼料にも供給されるなど、様々な場面で効果的に活用できますが、一部ではいまだに焼却が行われています。

稲わら等の農作物残渣を焼却すると、地球温暖化の原因となる温室効果ガスが排出されるほか、臭いや煙により、近隣住民の健康被害を引き起こす可能性もあります。

貴重な有機資源である稲わらや籾がらは、焼却せずに活用することで、環境にも人にもやさしい「新潟米」づくりを実践しましょう。

**乾燥機・籾摺機から出る粉塵の飛散防止
や夜間の騒音対策を行いましょう！**

【粉塵の飛散防止】

- ・排塵機の排出口を民家に向けない。
- ・集塵装置を活用するほか、集塵庫や集塵スペースを設け、効果を再確認する。

【騒音対策】

- ・静音運転機能や夜間休止モードを活用するなど、騒音の低減に努めましょう。

稲わら・籾がら
を使って

元気な田んぼに 土づくりのポイント

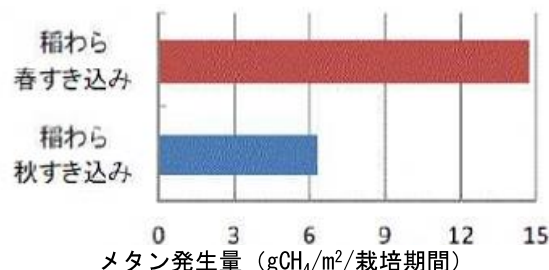
秋すき込みは10月20日頃までに

稲わら等を分解する土壌微生物は、地温が15℃以上で活動が盛んになります。稲わら等の秋すき込みは地温の高い10月20日頃までに行いましょう。

また、必要に応じて、稲わら等の分解を促進する腐熟促進剤等を活用しましょう。

稲わらの秋すき込みは、春すき込みに比べ、温室効果ガスであるメタンの発生量を抑制できます。

水田からのメタン発生量に対する
稲わら処理の影響（H5新潟県農総研）



すき込みは5～10cm程度の浅うちで

稲わら等のすき込みは、作業能率や酸素の供給を考慮し、5～10cm程度の「浅うち」としましょう。

水が停滞しやすい水田では、稲わら等のすき込み後、排水溝をつくり、地表水を排除できるようにしましょう。



耕畜連携を進めましょう

よく乾燥した稲わらは、牛の貴重な飼料となります。

良質な稲わらを収集して地域の畜産農家へ供給するとともに、土づくりのために良質な畜ふん堆肥を田んぼに施用するなど、双方にメリットのある耕畜連携の取組を地域で積極的に進めましょう。



土づくり資材を活用しましょう

転作等で畑地化すると、地力が低下していきます。りん酸・ケイ酸・鉄などが不足するほ場では、必要に応じて土づくり資材を施用しましょう。

籾がらも土づくりに効果があります

籾がらの分解はゆっくり進むので、短期的には生育・収量への影響は少ないですが、長期的には土壌の物理性を改善するなど、土づくり効果があります。

バイオ炭の農地施用で土壌改良と温室効果ガスの排出削減

もみ殻、稲わらや果樹剪定枝などは焼却せず、バイオ炭にして農地へ施用すると、土壌の透水性、保水性、通気性の改善などの土壌改良の効果と、炭素成分を長期間土壌に貯留することで大気中へのCO₂の放出を減らす効果があります。

バイオ炭の農地施用には、環境保全型農業直接支払交付金やJ-クレジット制度などの支援策もあります

地域ぐるみで環境に優しい農業を推進しましょう！

新潟県では2050年カーボンゼロの実現に向け、農業分野での温室効果ガス削減の取組を進めています